

## 京都府ダンススポーツ連盟について

会長 谷口主嘉

2013年5月12日、京都府ダンススポーツ連盟定時総会において会長の交代が行われ、私が会長に選出されるとともに、ほとんどの役員が入れ替わりました。

皆様もご存じの通り、それまでは京都府D S Fは松本巖前会長の独断専横体制が敷かれ、競技会運営の失敗や、公私混同が著しく、J D S Fおよび西部ブロックから体制の問題点を指摘されていたところでした。

2012年に振り込まれた会費・2013年3月末における繰越金の引き渡しもおこなわず、2013年6月9日に実施された第2回長岡京市ダンススポーツ競技会の申込金すらほとんどを着服し、30万円を新体制に引き渡しただけで現在に至っております。また、過去の体育館使用料や体協会費の未払いが発覚し、新体制が借入れを行って支払わなくてはならない状況となっていました。

当然ながら、松本巖にたいしての民事訴訟と刑事告発を現在行っており、このような事に時間を使わざるを得ないことに嘆息せざるをえません。

会務運営実務も全く引き継ぎがない状態なので、会員の皆様にはなにかとご迷惑をかけたこともあろうかと思えます。新体制になって1年をすぎ、やっと会務の全容がわかってきたというのが実情です。

都道府県連盟の本質というのは、社交ダンスの趣味とするアマチュアが、利害関係を超越して自分たちの為のダンス環境をより良くするために、組織された団体であると認識しています。ここがプロ団体との大きな違いであり、プロ団体はあくまでも利益追求が目的である同業者団体であります。

もっとわかりやすく言うと、プロ団体の行動規範は個々のダンス教室の利潤極大化であり、アマチュア団体の行動規範はアマチュアダンス愛好家の満足極大化です。

京都府D S Fはこのような認識のもと、アマチュアダンス愛好家にとって何が大切か考え続けています。

また現在の京都府D S Fの役員はほとんどがシニア系競技選手であるという特徴を生かしてシニアに優しい、おしゃれで品格のある競技会を開催するように努めております。

素晴らしい音楽と公平な審査、参加者が競技会を楽しめるような工夫……。このような事については色々なアイデアが浮かんできて実行に移しています。

ただ役員の大部分が競技選手であることは、競技選手の立場からしか会務を考えられていないという事もまぎれもない事実です。

私自身も競技に参加するのは良いのですが、パーティーで踊りたいと思ったことは一度もありません。悲しいかな、パーティーに参加されるかたの気持ちがわからないのです。また、サークル活動をしている方の気持ちも残念ながらわかりません。これが京都府D S Fの現在の問題点です。

サークルの為の会務運営を希望されながら、サークル会員の一部しかJ D S Fに登録せず権利ばかり主張するサークルに対してどのように対応していくのか。サークル関係者の気持ちのわかる方でないと解決は難しいと思います。

競技会以外の分野で、アマチュアダンス愛好家の為に積極的に活躍していただける方をどのように運営側に引きこんでいくか……。

難しい問題ではありますが、バランスのとれた京都府D S Fにしていきたいと思えます。